



土器は水が漏らないのでしょうか。本で調べると、土器にしみた水が、蒸発し、気化熱により中の水が冷え、腐りにくいとあります。しかし、私たちの作る陶芸の常識から考えて見ると、土器に使う粘土は荒土です。釉薬も掛かっていない素焼きでは、とても水を蓄えておけません。私は土器を作ってきた課程で、その疑問が解けてきました。他にも色々ありますが、それは研磨と、タタキでした。

縄文土器の内側は、外側の荒々しさから想像できませんが、磨かれてスベスベしています。粘土の表面の粗い目をつぶしてやると、釉薬と同じ効果で、驚くほど水がしみにくくなります。

弥生土器の作り方ですが、粘土は半乾きで、両面から叩かれ密度が増しています。密度が増すことは、高温で焼き締めたと同じ効果があり、水がしみにくくなります。

今回はいつもと違う作り方、タタキの技法を体験して頂き、自身の作陶に役立てて下さい。



タタキ板とナカアテ 厚めの原型を少し乾かし 上部より中と外から叩いて行く



縁を壊さないように注意しつつ底を叩く どんどん脹らむ 最後に底をくぼめる

一般の削り仕上げでは、形がやせて小さくなりますが、タタキ仕上げでは形はどんどん脹らみます。丹念に仕上げるほど、大きくなり得をした気分になります。タタキ板とナカアテを変えて、色々な形を楽しんで下さい。

※焼成後の水止方は、漆、乳、蠟、血、糊、などを内部に塗りました。